

さりげないセンシングによるスマートヘルスケア（日常人間ドック、リコメンドサービス等）、再生可能エネルギーの活用と蓄電池・EVの連携制御によるエネルギーの地産地消、オンデマンド相乗りタクシーなどの自治体MaaS、パーソナルデータを集中管理ではなく個人管理で安心安全に活用できるパーソナルデータエコシステムによる横串連携など、多様な先進技術の連携により、住民が最先端のウェルビーイング（心身ともに健康で幸せな状態）を享受できる快適未来都市にする。また南新地地区をリビングラボと位置付け、ニューノーマル時代の新サービス創出拠点を目指す。

■ 対象区域の概要

- ・対象：熊本県荒尾市（南新地地区）
- ・人口：約5万人 ・面積：57.37km²
- ※南新地地区にて土地区画整理事業(南新地地区ウェルネス拠点整備事業)が進行中
- ※有明海沿岸道路の延伸、及び荒尾北IC(仮称)が新設予定



■ 都市の課題

さらなる人口減少・少子高齢化によって…

医療・介護給付費の増加 賑わいの低下
交通機能低下 産業の担い手不足 空き家増加
子育て環境悪化 地域経済衰退 …

1. 切れ目のない充実した子育て環境をつくる
2. 雇用の確保と所得の向上で安定した暮らしをつくる
3. 誰もがつながりを持ち健康でいきいきとした暮らしをつくる
4. あらおファンを増やすとともに、移住しやすい環境をつくる
5. 先進的で持続的なまちをつくる

■ 解決方法

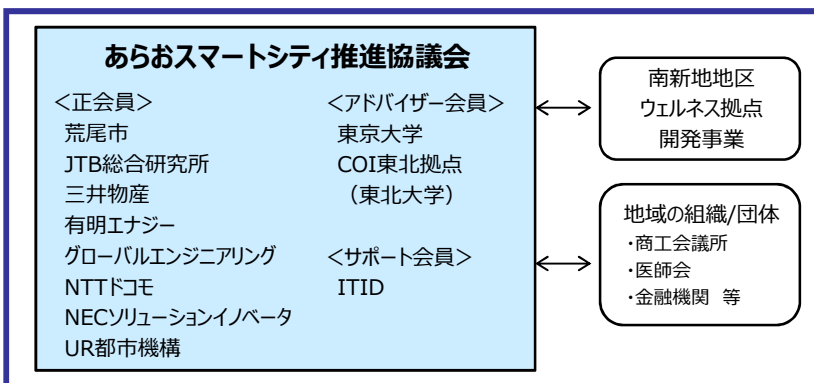
- **さりげないセンシングによるスマートヘルスケア**
「日常の計測→健康分析→自身/家族と共有」のコンセプトをベースにした健康寿命延伸に繋がる各種ヘルスケアサービス（日常人間ドック、リコメンドサービス 等）
- **エネルギー地産地消**
太陽光パネル/蓄電池/EVの連携、群制御による再生可能エネルギーの地域内活用と災害に強い電力インフラシステムの構築
- **自治体MaaS**
AIとスマホの活用により運行の効率化を実現したオンデマンド相乗りEVタクシーなど快適な移動
- **パーソナルデータエコシステム**
パーソナルデータの安心安全な利活用によるマッチング促進・各種サービス質向上 等
- **行政手続きのデジタル化**
スマホアプリを用いた乳幼児健診手続きの効率化 等

■ KPI(目標)

人がつながり幸せをつくる 快適未来都市

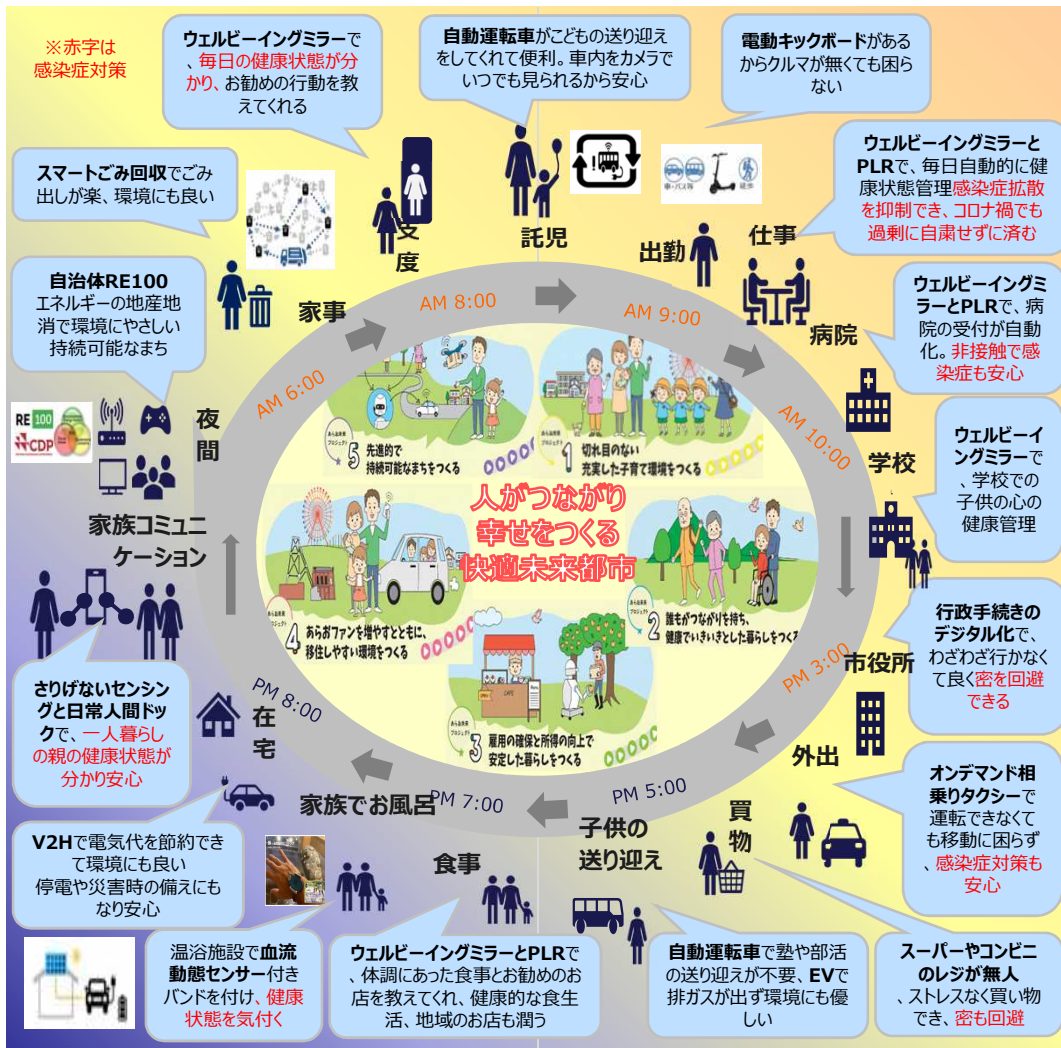
目標	指標	[R1]	[R7]
1. 切れ目のない充実した子育て環境をつくる	荒尾市で子育てをしたいと思う市民の割合	65.3%	70.0%
	合計特殊出生率	1.95	2.0
2. 誰もがつながりを持ち、健康でいきいきとした暮らしをつくる	平均自立期間	男性：78.9年	79.5年
	何らかの地域活動に参加している市民の割合	42.1%	75.0%
3. 雇用の確保と所得の向上で安定した暮らしをつくる	市内の従業者数	[H28] 15,011人	[R6] 15,000人
	1人あたりの市町村村民所得	[H29] 2,188千円	[R5] 2,257千円
4. あらおファンを増やすとともに、移住しやすい環境をつくる	あらおファンの人数	1,170人	3,000人
	本市への転入者数	1,750人	2,000人
5. 先進的で持続可能なまちをつくる	荒尾市が暮らしやすいと感じている市民の割合	71.8%	80.0%
	居住誘導区域内人口密度	43.1人/ha	42.3人/ha

■ 運営体制

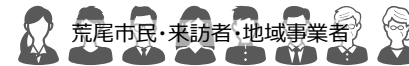


さりげないセンシングによるスマートヘルスケア（日常人間ドック、リコメンドサービス等）、エネルギーの地産地消、自治体MaaS（オンデマンド相乗りタクシー）、パーソナルデータエコシステム等々の技術による各種サービスを創出し、実証実験（PoC・PoT・PoB）を行いながら、事業化の目途付けできたものから段階的に実装する。R6～R8の街びらきに向け土地区画整理事業を進めている南新地地区ウェルネス拠点での全面実装を目指す。

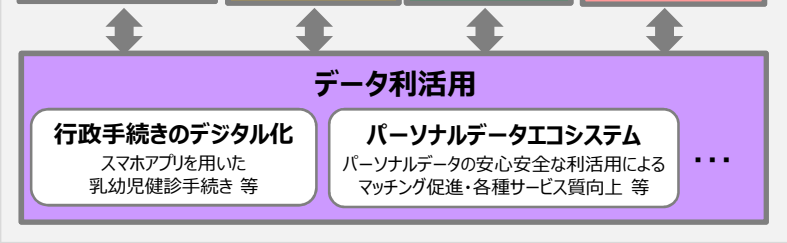
■ 目指すまちの姿



■ 本事業全体の概要



＜荒尾ウェルビーイングスマートシティ＞ ウェルビーイングのコンセプトに基づくスマートサービスを創出し荒尾市に実装するプロジェクト



＜南新地地区ウェルネス拠点＞

- 道の駅
- 温浴施設
- 子育て支援施設
- アウトドア施設
- 住宅
- 公園

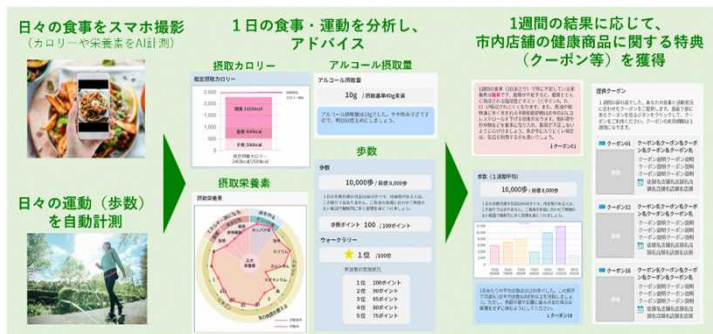
南新地地区にてR6年の街びらきに向け施設開発を検討中の土地区画整理事業で、各種スマートサービス実装の中心拠点にしていく想定

日常生活における食事（カロリー・栄養素）や運動（歩数）を計測し、健康状態の分析・可視化⇒行動・食事のリコmendを行うことで健康行動を促し、健康的な生活への行動変容を図ると同時に、市内のお勧め店紹介＋クーポン発行により、市内店舗の利用を促し、地域経済の活性化に繋げるサービス（スマートフォンアプリ）の実証実験を実施。あえて有料サービスとして試行することで実装・事業化に向けたリアルな課題を把握した。

■ 実証実験の内容

サービスの概要(生活習慣改善フォローアプリ)

スマートフォンアプリにて、毎回の食事の写真を撮ることで摂取カロリーと栄養素をAIが自動算出し、また日々の運動(歩数)から消費カロリーを算出。それらデータから健康分析を行い運動や食事についてアドバイスすると共に、健康分析結果に応じた健康商品/サービスを扱う市内店舗の特典(クーポン等)を獲得できる。



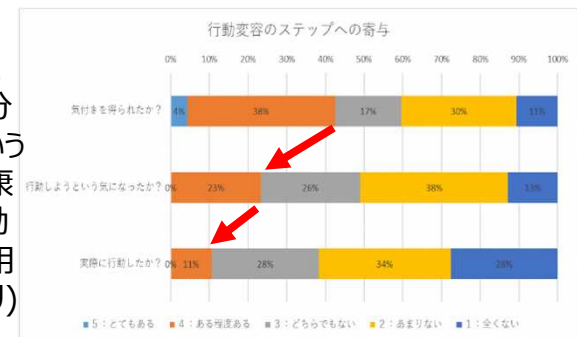
実証実験の概要

本サービス(アプリ)を市民に2か月間ご利用頂くことで、健康的な行動変容に繋がるか、継続的に使い続けられるか、利用料収入の可能性などについて、アンケート等を通して検証。あえて有料(月額300円×2か月)とすることで忌憚ない意見を把握する。今回は計68名の市民が参加。

■ 実証実験で得られた成果・知見

行動変容への寄与

被験者の42%に対しては健康に関する気付きを与えられたことが分かった。一方、健康行動しようという気になったのが23%、実際に健康行動にまで至ったのは11%。行動変容に繋げるにはまずは継続利用したくなる魅力的なサービス(アプリ)に改善する必要があることを把握。



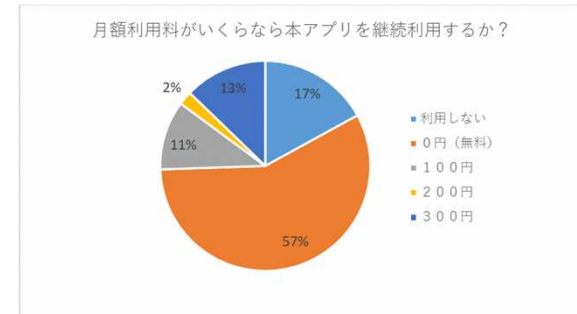
サービス(アプリ)の受容性

利用者数が初期は約76%あったものの終了期には13%まで減少。継続利用するには、食事毎に写真撮影する手間がボトルネックとなっているためその仕様/品質の改善と、クーポンの充実化が必要であることを把握。



利用料収入の可能性

被験者の26%は100円～300円なら継続利用すると回答しており、有料化の可能性はゼロではないと考える。ただし、継続利用したくなるようサービス(アプリ)の仕様/品質の改善が必須。



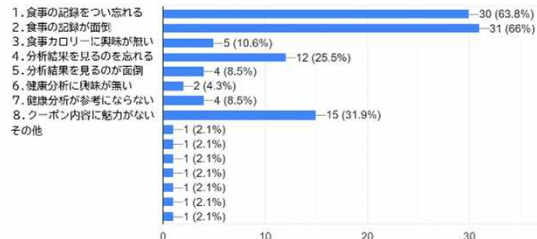
市民に健康的な生活習慣への行動変容を促すには、継続利用できるサービス(アプリ)であることが必要であり、そのためには今回のサービス(アプリ)の仕様・機能の改善が必要。特に、並行して取組中のサービス（デジタル健康手帳、血液検査による疾病リスク予測等）との組み合わせによるサービスのレベルアップを図る。また他分野とのデータ連携による相乗効果を生むための都市OS利活用も熊本県と連携して検討する。さらに今後は、競馬場跡地で再開発中のあらか海陽スマートタウン(R8開業予定)へ各種スマートサービスを埋め込んでいき、グリーンフィールド型スマートタウンの実現を目指していく。

■ 実証実験で得られた課題

サービス(アプリ)の仕様及び品質の改善

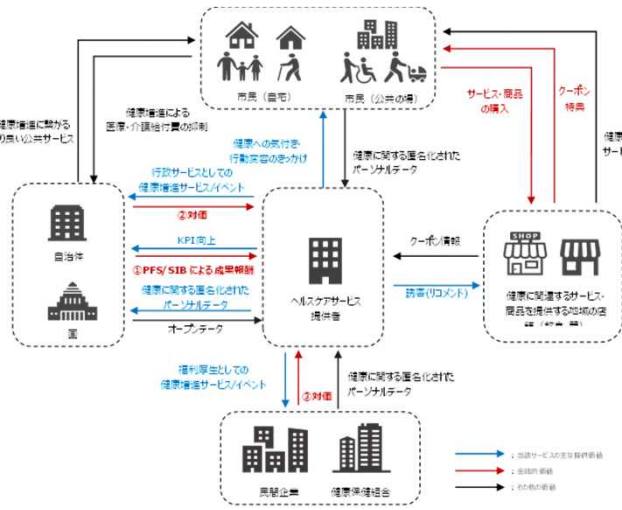
行動変容に繋げるには継続利用できるサービス(アプリ)である必要あり、そのためには毎食事の撮影等の面倒な作業が不要もしくは手間がかからない仕様への改善や、より魅力的な機能の追加等が必要。また地域店舗への誘客を促すにはクーポン内容の充実化も必要。

(アプリを継続利用できなかった方にお聞きします...られなかった理由は何ですか？ ※計47件の回答)



ビジネスモデルの確立

ユーザーや企業からの利用料、店舗からの会員料を得るには、競合するアプリ等に勝る魅力的な仕様/品質を維持し続ける必要あり簡単ではない。そのための改善は行いつつも、安定的に運営コストを賄うためには、PFS/SIBによる成果報酬など、収益を得られるビジネススキームを構築することが必要。



■ 今後の取組：スケジュール

今回明らかになった課題を踏まえ2023年度以降、まずは継続利用できるサービスとなるよう仕様・品質の改善を検討する。特に、進行中の他ヘルスケア事業（デジタル健康手帳、血液検査による疾病リスク予測等）との連携による魅力向上を検討する。

また、他分野とのデータ連携による相乗効果が生まれるよう、都市OSの利活用方針を熊本県と連携し検討する。並行して、持続可能なエコシステムとなるよう、都市マネジメント(エリマネ方法、組織体制、ビジネスモデル等)の在り方を検討。

さらに、競馬場跡地で再開発中の「あらか海陽スマートタウン(R8開業予定)」にゆくゆくは各種スマートサービスを埋め込むことで、全国でも先駆けとなるエリア全体がスマート化されたグリーンフィールド型スマートタウン実現を目指す。

	2022年度	2023年度～2026年度
ヘルスケアサービス	今回の事業 社会実装に向けた実証実験	サービス仕様・品質の見直し改善 進行中の他ヘルスケアサービスとの連携 ・デジタル健康手帳 ・血液検査結果を元にした疾病リスク予測等
都市OS / 都市マネジメント	都市OSの方針検討	分野間連携サービスの実証実験、社会実装 全体としての都市マネジメント検討・具現化 (エリマネ、組織体制、ビジネスモデル等)

※取組スケジュールは他事業との兼ね合い踏まえ決定